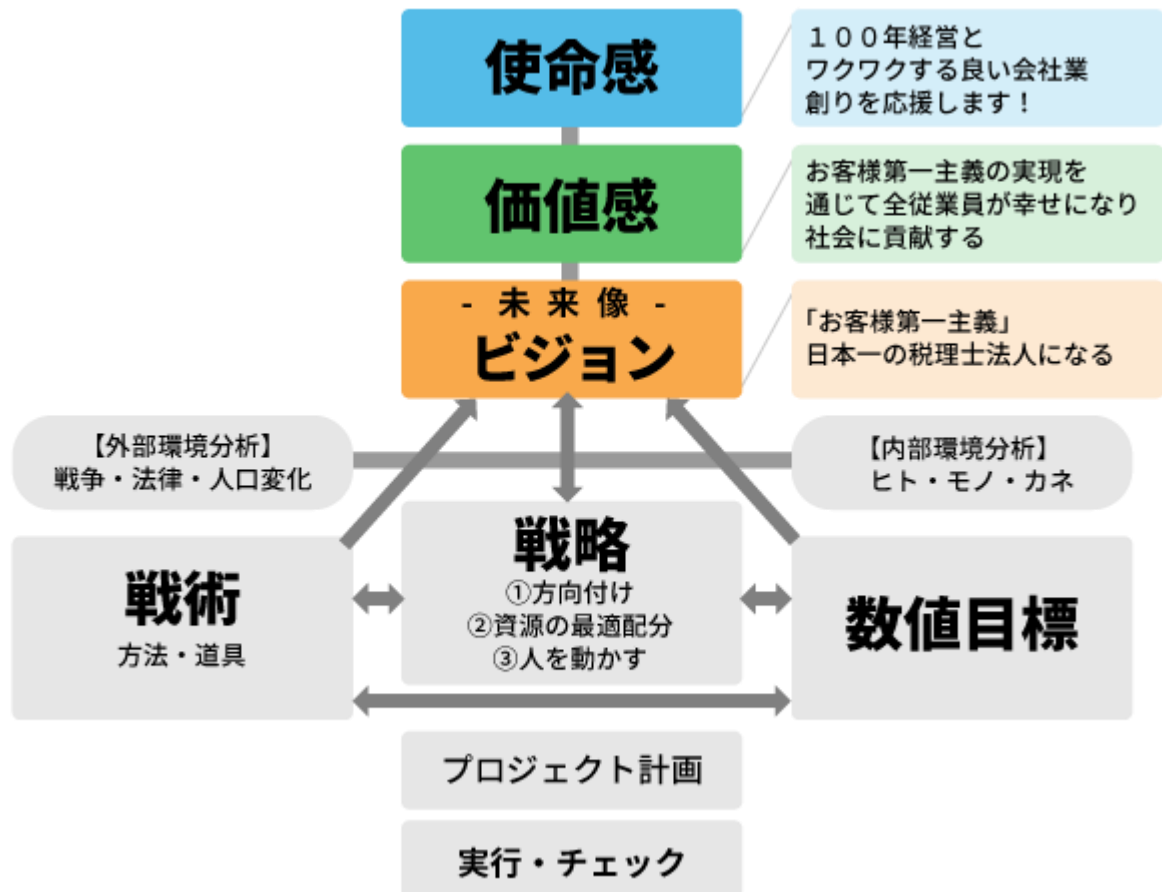


高収益型事業構造のつくり方

事業の繁栄は、高収益事業構造によって達成される。



(1)社長は、決定・利益に対して責任を負う。

(2)従業員は、方針に基づいて実施する。

社長は自らの経営理念に基づき、我社の未来像を、どのように実現するか、という基本的な行動指針が、経営計画書における方針書である。

	社長	社員
仕事	決定	実施
責任	利益	実行

①戦略とは、方向性とか順番です。何が1番で、何が2番か。トップのみが決定できるもの。経営者の戦略が誤っていると、人の倍働いても利益は出ません。会社をつぶすこともあります。正しい戦略で人の4倍(1日14時間、月360時間と人一倍頭を使う)働けば利益を絶対出せます。

②戦術とは、やり方・動具です。全従業員が頭を使うもの。トップも新入もありません。戦術で全員参加型経営を目指す。従業員の創造性を育てるもの。

③目標とは、手に入りたい結果の数字です。長期と短期の目標に、具体的な数字を入れます。人は目標を持つと頑張れるもの。

④戦略・戦術がうまく行っているかどうかは、目標をチェックすることにより検証がなされます。これを管理すると言います。戦略はトップダウン、戦術はボトムアップ、両方をバランスよく経営する。目標と結果が違うのは

① 社長の立案した戦略・戦術が間違っていた。

②従業員が社長の方針をその通りに実施しなかった。のいずれか。よって従業員は、社長の方針どおりに実施しないと社長は自分の間違いに気づかない。